あなたのお宝は大丈夫?

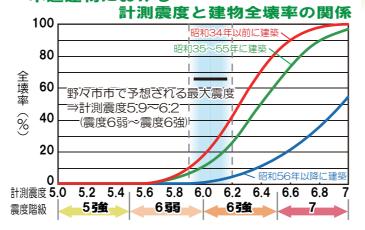
平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、犠牲者の約 8割以上が住宅・建物の倒壊による窒息死や圧死が原因で あったといわれており、特に昭和56年5月以前の耐震基 準で建てられた建物に被害が集中していました。

内閣府資料によると、木造建物における計測震度と建物 全壊率の関係は右の図表に示すとおりで、昭和55年以前 に建てられた建物の全壊率が高くなっていることがわかり ます。野々市市での最大の想定震度(震度6強「計測震度 6.2])が発生した場合、昭和34年以前に建てられた木 造建物は約43%の確率で全壊する可能性があります。

このような大きな被害をもたらす地震からみなさんの生 命や財産を守るためには、住宅等の耐震化が重要です。こ の機会に、住宅等の耐震性を調べ、耐震化を検討してみて はいかがでしょうか。

野々市市では、地震による建物の倒壊等の災害を未然に 防止し、市民の安全を確保するため、既存建物の耐震診断 及び耐震改修工事に要する費用の一部を補助する制度を設 けております。

木造建物における



計測	木造建	物の全壊率		
震度	S34以前	S35~55	S56以降	
5.9	9.7	5.9	0.9	. •
6.0	17.7	10.6	0.9	▼ 「東南海·南海地震防災対
6.1	28.9	17.4	2.7	策に関する調査報告書」
6.2	42.7	26.6	4.4	(2004 内閣府) より

↑S55 以前の木造建物の全壊率が高い

耐震診断・耐震改修に関する助成制度

	制度•事業名	対象建築物	事業に係る費用	お問い合わせ			
野々市	野々市市既存建築物	木造住宅	建築図面に基づく簡易耐震診断 (現況図面がある場合)	無料		野々市市建設部建築住宅課 TFI 076-227-6087	
	簡易耐震診断実施事業		現地調査に基づく簡易耐震診断 (現況図面がない場合)	5,000円			
野々市市住	野々市市住宅耐震改修		耐震診断	限度額12万円	補助率3/4	166010-221-0001	
	工事(診断)費補助制度		耐震改修	限度額150万円			

どんな建物が倒壊する危険性があるの?

①土台や柱、梁の接続部分の補強なし

• 構造部材の接合部分が金物で補強されていない。

2壁が少ない

・横からの地震の力に抵抗する"耐力壁"の配置が 不十分。※昭和56年の建築基準法改正で、以前の約1.4倍に強化

3建物の形や耐力壁のバランスが悪い

- 建物が複雑な形をしている。
- ・ 2階部分が1階部分から張り出している。
- ・店舗や車庫など、道路側が全面開口となっている。

4基礎が弱い

・鉄筋が入っていないコンクリートの基礎や、 基礎が無い古い住宅。

5建物が老朽化している

- 建物のメンテナンスをしていない。

耐震性に関するチェックポイント!

木造住宅の耐震性には、主に3つのチェックポイントがあるといわれています。

- ■新耐震設計基準(昭和56年6月施行)に基づいた設計か
- ■住宅が過去に大きな災害を経験し、破損等の心配はないか
- ■大きな窓がたくさんある、壁の量が少ないなど住宅の構造、形に問題はないか

財団法人日本建築防災協会のホームページの、『誰でもできるわが家の耐震診断』 では、住宅の地震に対する強さ弱さのポイントとなる部分がわかりやすくまとめられ ています。



令和4年4月

野々市市では、市民の皆さんに地震発生時の地域の危険度に関する情報を提供し、事前の地震対策を考え、 大規模地震に備えていただくために、"地域の危険度マップ"を作成しました。

この"地域の危険度マップ"は、地域の建物棟数データ(構造別・建築年別)と想定される最大震度※に 対する建物の全壊率を掛け合わせ、各地域で想定される「全壊する建物の割合」を推計し、地域の危険度と して表示したものです。

過去の大規模な地震(阪神・淡路大震災など)では、耐震基準が改正された昭和56年5月以前の建物に 被害が多く見られます。この"地域の危険度マップ"を確認し、家族みんなで、自宅の耐震性について話し 合ってみましょう。

※1 想定される最大震度

「森本・富樫断層帯(M7.2)で発生する地震」や「庄川断層帯(M7.9)で発生する地震」、「どこでも起こりう る直下型の地震(M6.9)」の発生を想定し推計を行ったところ、野々市市では震度6弱~震度6強の揺れが起こる可 能性があることがわかりました。

マグニチュード (M) と震度の違いは?

「マグニチュード」は、地震そのものの大きさ(規模)を表すものさしです。一方、「震度」は、ある大きさの地 震が起きた時のわたしたちが生活している場所での揺れの強さのことを表します。

この「マグニチュード」と「震度」には、例えば、「マグニチュード」が小さい地震でも、震源からの距離が近い と地面は大きく揺れるため「震度」が大きくなり、「マグニチュード」が大きい地震でも、震源からの距離が遠いと 地面の揺れは小さくなるため「震度」が小さくなるといった関係があります。

北陸地方も安心できません!

平成16年に発生した新潟県中越地震(震度7)、平成1 9年に発生した能登半島地震(震度6強)、新潟県中越沖地 震(震度6強)など、近年、北陸地方においても死者や家屋 の倒壊が伴う大きな地震が発生しています。

このような規模の地震は、いつ、どこで起こるかわかりま せん。地震が起こる前に家族で話し合い、日頃の備えを心が けましょう。

右の図は、気象庁(https://www.jma.go.jp/)が公開している「震度

能登半島地震(震度6強) により倒壊・全壊した家屋 気象庁HPより

と揺れ等の状況(概要)」を抜粋したものです。





[農度6弱] (5.5以上~6.0未満

- 立っていることが困難になる. 固定していない家具の大 半が移動し、倒れるもの
- もある. ドアが開かなく なることがある. 壁のタイルや窓ガラスが
- 破損、落下することがある。 耐震性の低い木造建物は 瓦が落下したり、建物が 傾いたりすることがある

倒れるものもある。





[震度6強] (6.0以上~6.5未満 ● はわないと動くことができ

- ない. 飛ばされることもある
- 固定していない家具のほ とんどが移動し、倒れる ものが多くなる
- 耐震性の低い木造建物は 傾くものや、倒れるもの が多くなる.
- ●大きな地割れが生じたり、 大規模な地すべりや山体の 崩壊が発生することがある。



[震度7] (6.5以上) ● 耐震性の低い木造建物は

- 傾くものや、倒れるもの がさらに多くなる.
- 耐震性の高い木造建物で も、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンク
- リート造の建物では、倒 れるものが多くなる。

「震度と揺れ等の状況 (概要)」 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/shindo/jma-shindo-kaisetsu-gaiyo.pdf

このパンフレットに関するお問い合わせは、野々市市建設部建築住宅課 TEL:076-227-6087(直通)